

## 四月に入園した幼児

入園式の前は、たいがい幼稚園をたのしみにし、待っている。

入園式がすんで、一月、二月とたつうちに、それぞれ、いろいろのことがあって、入園の前なのたのしきや期待が破られる。子どもなりに、夜、ねられなかったり、夜中に泣いたり、朝、起きるのも気が重かったり、怒りっぽくなったり、いろいろである。新しい世界にはいって、ある程度の緊張は、だれにも避けられないものである。

けれども、教師のひとこと、一つのふるまいが、幼児の心の負担を重くしたり、あるいは軽くしたりする。幼稚園から帰ってきてからの母親のひとことが、その負担に拍車をかけたり、あるいは、軽くするのに役立つ。こう思うと、幼児にふれるおとなの心づかいは、なかなか大へんである。それだからこそ、専門の教育をうけた教師を必要とし、また、幼稚園の教師は、たえず自分自身を訓練する機会を必要とするのである。

こうして、一月たち、二月たつて、どの

子どもも幼稚園に馴れたように見え、適応したようにみえても、幼児の内面の生活はいろいろである。幼稚園生活のなかに、よろこびと生きがいを見出しているものは幸いである。いやがらずに行っているも、その心に張りを失っている子どもには、何を与えたらいいかを、一しよけんめい、考えなければならぬ。

現場の実践的な仕事は、次から次へと、さまざまな現実的問題がおしよせてきて、そこで問題として感じたことを、十分に考える時間も余裕も与えてくれない。現場の仕事は、それを研究する役割りを伴わないと、進歩しないのである。幼稚園の現場は、全国にふえつつあるのだが、幼稚園研究の場はすこしもふえていかない。もっと、幼稚園研究をする人が、現場の内外に必要であるし、幼稚園研究の機関がふえなければならぬ。

それでなければ、幼児教育はいつまでたっても同じことをくり返していくであらう。

## 幼児の教育 第六十七巻第六号

六月号 ◎ 定価八〇円

昭和四十三年 五月二十五日印刷  
昭和四十三年 六月 一日発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館  
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします